

てんたかく 防除等管理特報

令和7年 JA 冬期懇談会資料をご活用ください。

令和 7 年 7 月 3 日

アルプス農協管内農業技術者協議会

てんたかくの生育状況(6/30)と管理のポイント

	田 植 日	草 丈 (cm)	茎 数		葉令	葉色	幼穂形成期	出穂期
			本/株	本/m ²				
令和7年	5月3日	64.1	26.3	531	11.8	4.3	6月23日	7月14日予測
令和6年	5月3日	64.4	27.0	588	11.7	4.0	6月25日	7月14日
平年	5月5日	64.6	29.2	627	11.8	4.3	6月26日	7月17日

※平年は、H27～R6の平均値。R3～R6は立山町1か所、上市町1か所、滑川市1か所の計3か所の平均値。R2までは、立山町1か所、上市町1か所の平均値。

- (1) てんたかくの**幼穂形成期**は、5月3日植えの場合で、**6月23日**となりました。
- (2) 今後も高温傾向が続くと予測され、てんたかくの5月3日植えの場合で、**出穂期は7月14日頃**と予測されます。
- カメムシによる斑点米の発生を防止するため、**出穂の状況を必ず確認**して、遅れず**適期に防除**を行いましょう。
- (3) 水管理については、幼穂形成期から出穂期までは飽水管理、出穂期から20日間は湛水管理、その後から刈り取り5～7日前までは間断かん水を励行し、稲体の活力を維持して、高品質米の生産につとめましょう。

1 てんたかくの基本防除のめやす

参照ページ:p40～41

今年はカメムシ類が管内全域でかなり多く発生しています。特にてんたかくは例年カメムシ類の被害が大きいことから、出穂期から7日間隔で3回防除を徹底しましょう。



【YouTube】
14 基本防除

(田植日:5月3日、出穂期予測:7月14日頃の場合)

防除時期	出穂期 (穂が5割見られたら)	穂揃期 (穂が9割見られたら)	傾穂期 (穂揃期の7日後)
	7月13～14日頃	7月20～21日頃	7月27～28日頃
粉 剤	ビームモンカット スタークル F 粉剤5DL 3～4kg/10a (収穫14日前まで)	ラブサイドキラップ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤 DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液 剤	モンカットフロアブル +スタークル液剤 10 1,000 倍 (収穫14日前まで)	ラブサイド K2 フロアブル 1,000 倍 (収穫14日前まで)	スタークル液剤 10 1,000 倍 (収穫7日前まで)
	散布量:150L/10a	散布量:150L/10a	散布量:150L/10a
対象病虫害	紋枯病、 いもち病 (※粉剤)、 カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ	いもち病、カメムシ類、 ウンカ類 (※粉剤)	カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ

※防除間隔は7日を基本とし、10日以上あけないようにしましょう。

※薬剤は決められた量や濃度を守り、畦畔や株元にも十分かかるように散布しましょう。

※農薬を散布する際は、周辺の野菜等他作物や住宅地への飛散防止に努めましょう。

「防除日が遅くなった」、
「防除間隔が長くなった」等、
防除時期のずれが斑点米の
発生につながります。

2 水管理

参照ページ:p42

今年の夏も暑くなると予想されています。
生育ステージに応じた適切な水管理を徹底しましょう。

【YouTube】
10 中干し後の
水管理



【YouTube】
15 登熟期間
水管理



●生育ステージに応じた水管理

生育ステージ	幼穂形成期	出穂期	出穂20日後	収穫5～7日前
水管理	飽水管理	湛水管理	間断かん水	
水量				

出穂までは
『飽水管理』

足跡の水がなくなる
前に入水し、常に
圃場が湿っている
状態を保ちましょう。



出穂後 20 日間は
『湛水管理』

湛水管理により
収穫期近くまで
葉色が濃く、稲の
活力が維持され
登熟が向上します。



収穫前まで
『間断かん水』

出穂 20 日後から
収穫の 5～7 日前
までは間断かん水
で稲体の活力を
維持しましょう。



【飽水管理】 入水後→自然落水→入水 (出穂始め頃まで繰り返す)



繰り返す

※幼穂形成期から出穂期にかけては、
稲の茎葉からの蒸散が多くなる時期で、
水分を多く必要とします。
※圃場が乾き過ぎると極端に葉色が下がり、
稲体の活力が低下するので、湿潤状態を保ちましょう。

「田面の高い部分が隠れる程度まで入水」 「この状態になったら入水」 「この状態は乾きすぎ」

○下流域まで十分に水が行き渡るようかけ流しを止め、地域での計画的な用水の利用に努めましょう。
○フェーンが予想されたら、水不足にならないようあらかじめ入水しましょう!!

3 農作業中の熱中症対策

農作業中の熱中症による死亡事故は、7月～8月に集中しています。「熱中症対策のポイント」を参考に安全な農作業としましょう。

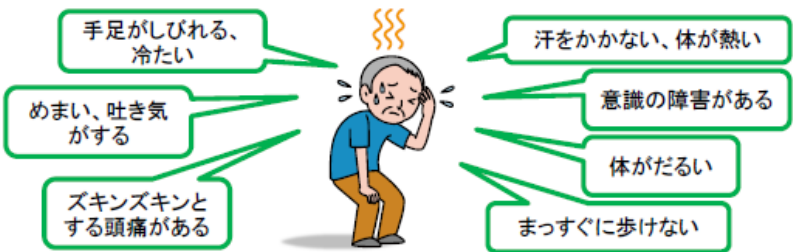
熱中症対策のポイント

- ※農作業の前に、気象情報や「暑さ指数 (WBGT)」をチェックし、気温が高くなることが予想される場合は、激しい作業は避けましょう。
- ※日中の気温の高い時間帯を避けて作業を行いましょう。
- ※屋外の作業では、帽子や吸湿速乾性の衣服の着用など熱中症対策アイテムを活用しましょう。
- ※屋内の作業では、必要に応じ送風機やスポットクーラーなどを利用しましょう。
- ※のどが渇いてなくても、20分おきに休憩し、毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう。
- ※作業はできるだけ複数で行い、時間を決めて体調確認を行いましょう。

環境省ホームページ「熱中症予防情報サイト」
<https://www.wbgt.env.go.jp/>

熱中症が疑われる場合は、すぐに作業を中断して応急処置を行うか、病院で手当を受けましょう。

○熱中症による代表的な症状



○応急処置の例

- ・涼しい場所へ避難しましょう。
- ・服をゆるめて風通しをよくしましょう。
- ・水をかけたり、扇いだりして体を冷やしましょう。
(脇の下、両側の首筋、足の付け根を冷やすと効果的。)
- ・水分や塩分を補給しましょう。